

体幹部スポーツウェアの体幹位置覚 スポーツパフォーマンスへの影響

研究代表者 岐阜大学 宮本 敬
解説 中島 利誠

体幹部にフィットさせたスポーツウェアをシミュレートして体幹に巻いた腰部サポーターが、体幹の屈曲角度再現能力、拳上重量再現能力にいかに関与をあたえるかを検証した研究であります。腰部サポーター装着によって、残念なことに拳上重量再現性には有意差が生じませんが、体幹屈曲角度再現誤差は有意に減少したと報告しています。

衣服の胸部圧迫時の衣服圧と圧迫感覚値の関係がWeber-Fechnerの法則に適合するとして岡田の報告¹⁾や比率尺度を用いて衣服圧と“きつさ”感覚の間に直線関係の成立を報告した三野の報告²⁾が知られてはいますが、本研究のように腰部のサポーターの装着と運動機能性を体幹屈曲角度再現誤差という尺度で評価した研究は珍しいです。

局所の圧迫による発汗抑制という現象はあるにしても、衣服圧のみでスポーツウェアに必要な熱・水分移動機能までをシミュレートできるとは思えませんが、ある種の運動機能への向上に有効である可能性を示唆した研究があります。本研究では圧迫刺激の基準化がとられていな

い点にも、一層の工夫が必要と思えますが、今後の研究成果を期待したいものです。

- 1) 岡田宣子；胸部圧迫時の衣服圧と圧迫感覚値との関係、織消誌、**36**、146-153（1995）
- 2) 三野たまき；上田一夫；ウェストベルト圧と比率尺度による圧感覚、家政誌、**48**、989-998（1997）



体幹にフィットするスポーツウェアでパフォーマンスを高める可能性がありそうだ

前屈および側屈姿勢の再現誤差にバンド装着が与える影響

体幹の動き	曲げる程度	誤差（目標角度と再現角度との差）	
		バンド装着なし	バンド装着あり
前屈（前かがみ）	最大の1/3	3.0（度）	1.3（度）
	最大の1/2	3.7（度）	1.8（度）
	最大の2/3	2.9（度）	1.8（度）
側屈（横まげ）	最大の1/3	2.9（度）	2.1（度）
	最大の1/2	2.9（度）	2.0（度）
	最大の2/3	2.1（度）	1.1（度）

体幹の前後屈において姿勢において姿勢を再現させた。バンド装着をした方が角度を正確に再現できた。